第３章　都心部まちづくりの目標と基本方針

１　まちづくりの目標

世界文化遺産姫路城を擁する姫路市の都心部は、本市を代表する都市イメージを形成・発信するとともに、古来より播磨の商業・業務・交通の中心としての役割を果たしてきました。

また、市民にとって買物や飲食はもとより文化や芸術などに触れ、出会いや楽しみの場となっており、充実した都市機能を提供するという役割も果たしてきましたが、近年、都心部を取り巻く環境や市民意識の変化などにより、その役割に陰りが見られるようになってきました。また、郊外部における大規模店舗の進出、都心部における定住人口の減少や高齢化の進展などにより、活力が減退しつつあります。

しかしながら、長い年月をかけて築き上げてきた鉄道・道路等の都市基盤や都心部ならではの機能を持つ施設、また、都心部で住み、働き、訪れる人々によって育まれた有形無形の貴重かつ大量な資産・資源を考慮すると、さまざまな都市機能が凝縮された都心部のさらなる活用が、圏域全体の活性化を導く重要な施策であると考えます。

都心部のさらなる活用は、都心部でしかできない新たな事業を展開するチャンスをつくるとともに、訪れる魅力をさらに高め、市民や圏域住民のより豊かで生きがいのある生活を実現する有力な手段にもなると考えます。

また、多くの資産・資源を備えた都心部の再生は、集積された都市基盤・資源等の有効的な活用であるとともに、環境にやさしい持続可能なまちづくりに向けた取り組みであるとも考えます。

そこで、姫路城をはじめこれまで培ってきた歴史的資源の保全と活用に努め、市民の力で新たな歴史や物語を創造し続けるとともに、都心部の個性と魅力を創出し、人・もの・情報が行き交い活力と賑わいにあふれ、市民はもとより訪れる人々が、さまざまな出会いや体験を通して感動を享受できる元気な都心の再生を目指します。

都心部の目指すべき目標

歴史を育(はぐく)み、賑わいと感動あふれる都心の再生

2　構想の目標年度

JR 山陽本線等連続立体交差事業の完成時期（播但線・姫新線の高架切替時期）が、平成 20 年度（2008 年度）に予定されています。また、キャスティ 21 計画のエントランスゾーンの整備については、鉄道高架事業の完成後に基盤整備をおこない、新たな施設の導入を推進していきます。

そこで、平成 20 年度の鉄道高架事業の完成後、当面 10 年後をめどに当該ゾーンの基盤整備と施設導入を見越して、平成 30 年度を目標年度とします。

目標年度	平成 30 年度（2018 年度）
推進期間	平成 18 年度（2006 年度）から平成 30 年度までの 13 年間

3　まちづくりの基本方針

都心部が目指すべき目標を実現するため、以下を基本方針として都心部のまちづくりを進めていきます。

(1)　世界文化遺産姫路城など歴史的資源を活かした国際観光都市の構築

世界文化遺産姫路城の保全と活用を図るとともに、都心部に集積する歴史的・文化的資源の活用による国際観光都市の構築を目指します。

(2)　感動と楽しさあふれる回遊性の高い都心の形成

高度な商業集積や多彩なイベントの展開を図るとともに、地域の特性を活かしつつ回遊性の高い都心の形成を目指します。

(3)　都心居住による安全・安心で住みよい都心の形成

都心居住を促進し、コミュニティの再生や防災性・防犯性の向上に努め、安全・安心で住みよい都心の形成を目指します。

(4)　播磨の中核都市、西播磨テクノポリスの母都市として魅力と活力ある都心の形成

文化・教育、交流、情報サービスなど広域の利用圏を前提とする高次都市機能の集積と基盤整備を進め、播磨の中核都市、また、西播磨テクノポリスの母都市にふさわしい魅力と活力ある都心の形成を目指します。

(5)　生活の質の充実と人や環境にやさしい都心の形成

真の豊かさが実感できる質の高い市民生活の実現を目指すとともに、環境への配慮や人にやさしい都心の形成を目指します。

(6)　人・もの・情報が活発に交流する都心の形成

都心の魅力づくりと姫路イメージの発信に努め、人が集い、活気あふれる交流都心の形成を目指します。

(7)　市民の力による魅力ある都心の形成

都心部を市民の共有財産ととらえ、市民の創意工夫と積極的な参加によって、さらに魅力の高い都心の形成を目指します。